

年月日

16

04 19

ページ

04

N.O.

高校入学時は美術の道に進もうと考えていた。自分の好きな事ができたらいいという単純な考え方で、将来の自分が建築を楽観視していたのだ。そんな私の選んだ道は建設業だった。そだ道は建設業だった。

「美大進学に必要な文系科目よりも、理系科目はどうか」という当時の担任教諭の薦めが私の感性にハマった事がきっかけで、現在の私の生活が成り立っている。

現場管理の仕事は私の予想以上に時間が掛かり、根気と体力の勝負だつた。業界では頻

建物完成時の達成感

凛としている

理系女性の挑戦



繁い耳にする3K（汚い・臭い・きつい）の汚いや臭いというのは最近ではイメージできない程改善されているようを感じる。ただし、きつい、というのはどんな業界でも同じだろう。私も子供が一人いて、家事と育児と仕事を立ち、円滑に作業を進めいく事は困難である。

しかし、私はこの仕事を生涯続けたい。なぜならきっと、女性の感性は珍しくなくなつた。この業界にも女性の感性が必要だと認められてきたのだろう。設計・現場管理等の仕事以外

事の両立はきつい。それでもこの仕事を続けたいと感じるのは、一種の中毒的な感情のせいだ。建設業は決まりた工期内で丁寧に、そして安全に、お客様に満足を提供する。お客さまと職人の間に立ち、円滑に作業を進めいく事は困難である。

建設業に携わる人間は皆理解している。だからこそ、この仕事を誇りを持つて突き進んでいるのだと私は思う。

建設業界でも女性は珍しくなくなつた。この比率が同等の建設現場に誕生する事もあり得るのかも知れない。こ

建設業界に女性の力必要

でも、女性職人と出会いもある。力仕事は基本的に見えないが、

弊社の行う塗装業、その他にも内装業、電気・設備業、美装業など

つく困難な現場の建物が完成した時の達成感、満足感は計り知れ

ないのだ。そして、ど

のきめ細かい作業は女

性の方が向いていると

私は感じる。

建設業の女性たちは

男性社員や職人とはま

た違う一面を持つてお

り、自らの特色を生か

し、活躍している。ま

た、男性社会で鍛えら

れ、できる事ならどん

な事でも食いついてい

くぞという、たくまし

い女性も多い。

いつか女性と男性の

比率が同等の建設現場

に誕生する事もあり得るのかも知れない。こ

れからも建設業界には女性の力が必要だと私は強く感じるのだ。

企画協力・日本女性

技術者フォーラム（J

WEF）

（火曜日に掲載）

竹延 テクニカル
リユースアル部
水島 千瑛



4月に開設した建設業従事者向け託児所「ペイントナビキッズ」にて

大阪工業大学工学部建築学科卒。同年電気設備会社に就職後、12年に妊娠を機に退職。15年1月、竹延に施工管理職として入社。